

## 執筆者略歴 (2021年12月現在)

ブライアン・クラーク (ハドソン研究所シニア・フェロー、同防衛構想技術センター長)

ハドソン研究所のシニア・フェローで、同防衛構想技術センター長も務める。海軍作戦や艦隊編成、電子戦、自律システム、軍事競争、5G通信、指揮統制の研究を主導。ハドソン研究所で勤務する前は、戦略予算評価センター (CSBA) のシニア・フェローとして、国防総省ネット評価局、国防長官府、国防高等研究計画局のために新技術や戦争の未来に関する研究を主導していた。それ以前は、海軍作戦部長特別補佐官兼司令官行動グループ長として海軍戦略の策定を指揮し、電磁スペクトラム作戦、海中戦、遠征作戦、人員即応性管理において新たな構想を実行。25年間の海軍生活では、下士官及び将校として、2隻の原子力潜水艦の機関長や海軍原子力訓練部隊の作戦将校など、海上及び陸上における潜水艦の運用・訓練に従事。米国国立戦争大学で国家安全保障研究の理学修士号、アイダホ大学で化学と哲学の理学士号を取得し、ワシントン大学で化学の大学院研究を行った。

藤田元信 (ふじた もとのぶ) (防衛装備庁 技術戦略部 技術戦略課 技術企画室 企画調整補佐官)

2003年、東京大学修士 (情報理工学)、2006年、同博士。日本学術振興会特別研究員を経て、2006年、防衛省入省、技術研究本部陸上装備研究所、技術開発官 (誘導武器担当) 付海上配備型誘導武器システム開発室等において防衛装備品の試験研究及び開発管理に従事。2017年、防衛装備庁技術戦略部技術計画官付計画室戦略計画班長。2020年、防衛装備庁技術戦略部技術戦略課技術企画室企画調整官。現在、防衛装備庁よりランド研究所アジア太平洋政策センターに派遣され、客員研究員として政策研究を行っている。これまでに、2019年に防衛省から公表された『研究開発ビジョン～多次元統合防衛力の実現とその先へ』の策定に関わるなど、研究開発及び技術行政全般にわたる業務経験を

持つ。専門分野は技術戦略、科学社会学、軍事技術史、計測工学など。著書に『技術は戦略をくつがえす—戦略を破壊した戦争の技術史—』(クロスメディア・パブリッシング、2017年)。

**タイミン・チェン**(カリフォルニア大学グローバル紛争・協力研究所所長)

カリフォルニア大学サンディエゴ校(ラホヤ)のグローバル紛争・協力研究所(<http://igcc.ucsd.edu/>)所長。研究分野は、世界的な科学技術大国を目指す中国の取り組みや、地政学、イノベーション、国家安全保障の関係など。カリフォルニア大学サンディエゴ校のグローバル政策・戦略学部の教授でもある。中国及び東アジアの防衛・安全保障問題、特に防衛経済、産業、科学技術問題を長年にわたり分析している。著書に、*Fortifying China: The Struggle to Build a Modern Defense Economy* (Cornell University Press, 2009)、*Innovate to Dominate: The Rise of the Chinese Techno-Security State* (Cornell University Press, 2022)、編書に *Forging China's Military Might: A New Framework for Assessing Innovation* (Johns Hopkins University Press, 2014)、共編書に *The Gathering Pacific Storm: Emerging US-China Strategic Competition in Defense Technological and Industrial Development* (Cambria Press, 2018) がある。1980年代半ばから2002年まで、香港、中国、日本を拠点に大中華圏と東アジアの政治、経済、戦略動向を研究。キングス・カレッジ(ロンドン)で戦争学の博士号を取得。

**角南篤(すなみ あつし)**(公益財団法人笹川平和財団 理事長、政策研究大学院大学 学長特別補佐・客員教授、アジア太平洋財団(カナダ) 特別フェロー、早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 客員教授)

海洋政策、科学・技術・イノベーション政策を研究。文部科学省日本ユネスコ国内委員会共同委員長、内閣官房経済安全保障法制に関する有識者会議委員、内閣府宇宙政策委員会基本政策部会委員等を務める。コロンビア大学政治学博士(Ph.D.)、コロンビア大学国際関係・行政大学院国際関係修士(MIA) ジョージ

タウン大学外交学学士 (BSFS)。近著・論文に「先端技術を巡る覇権国としての中国」『国際問題』(2022年2月)、「インド太平洋の安定的発展のカギに」『国際開発ジャーナル』(2021年6月)、『東アジア海洋問題研究：日本と中国の新たな協調に向けて』編著(2020年4月)などがある。

#### マルコム・デイビス (豪戦略政策研究所 (ASPI) 上級アナリスト)

2016年1月から豪戦略政策研究所 (ASPI) で防衛戦略・能力担当上級アナリストとして勤務。その前は、2012年3月から2016年1月まで、ボンド大学社会デザイン学部で中国・欧米関係の博士研究員を務めた。2007年11月から2012年3月までは国防省に勤務し、海軍本部で戦略・戦力構成分野、及び戦略政策局で戦略的政策ガイダンスに従事。2000年6月から2007年10月までは、統合軍指揮幕僚大学 (英国シュリヴェンハム) でキングス・カレッジ・ロンドンの防衛学の講師を務めた。ハル大学で戦略学の博士号、オーストラリア国立大学戦略防衛研究センターなどで戦略学の修士号を2つ取得。主な研究テーマは、防衛戦略・能力開発、宇宙政策、軍事技術、戦争の未来。

#### マイケル・ラスカ (南洋理工大学 S ラジャラトナム国際研究院 (RSIS) 准教授)

シンガポールの南洋理工大学 S ラジャラトナム国際研究院 (RSIS) の准教授であり、軍事変革プログラムのコーディネーターを務める。研究テーマは、防衛・軍事イノベーション、新興技術と戦略的競争、東アジアのサイバー戦争。著書に *Military Innovation and Small States: Creating Reverse Asymmetry* (Routledge, 2016)、共編書に *Defence Innovation and the 4th Industrial Revolution: Security Challenges, Emerging Technologies, and Military Implications* (Routledge, 2022)、*Security, Strategy, and Military Change in the 21st Century: Cross-regional Perspectives* (Routledge, 2015) がある。学術論文としては、*Journal of Strategic Studies*、*Strategic Studies Quarterly*、*PRISM - Journal of Complex Operations*、*Journal of Indo-Pacific Affairs*、*Sirius - Journal of Strategic Analysis* などの雑誌に寄稿。ノルウェー防衛研究所 (IFS)、国際戦略研究所 (IISS)、欧州連合安全保障研究所 (EUISS)、新アメリ

カ安全保障センター (CNAS)、カリフォルニア大学グローバル紛争・協力研究所 (IGCC)、スウェーデン国防大学 (SEDU) との共同編集書籍の章を執筆。シンガポール国立大学リー・クアンユー公共政策大学院で博士号 (2012年) を取得し、大学院学長奨学金を受けた。

イワン・ダニーリン (ロシア科学アカデミー所属世界経済国際関係研究所 (IMEMO) 科学・イノベーション部長)

ロシア科学アカデミー所属世界経済国際関係研究所 (IMEMO) 科学・イノベーション部長。モスクワ国際関係大学 (MGIMO) の准教授でもあり、それ以外にもいくつかのロシアの著名な研究大学で講師を務める。2010年から2015年まで、ロシア最大の電力会社であるロスアトムとロセッティのイノベーション部門でパートタイマーとして勤務していた。2010年代以降、ロシア国家技術イニシアチブ、ロシア連邦科学技術開発戦略、ロシア連邦国際科学技術協力構想など、ロシアのあらゆる主要イノベーション政策措置や文書の議論・策定に参画。ロシア科学・高等教育省やロシア連邦議会下院など、複数の連邦機関や企業の専門機関で役員を務める。現在の研究テーマは、デジタルトランスフォーメーションの経済的側面と関連するガバナンス問題、米中グローバル・テクノロジー紛争 (国際ハイテク市場や IR への影響など)。100本以上の学術論文と20件以上の分析レポートを執筆。

## 令和3年度安全保障国際シンポジウム 技術革新と安全保障—東アジアの戦略環境に及ぼす影響—

2021年12月8日(水) オンライン形式

9:00～11:00 第1セッション「米国／日本／中国の視点」

議長：兵頭慎治（防衛研究所政策研究部長）

司会：今福博文（防衛研究所軍事戦略研究室長）

報告：ブライアン・クラーク（ハドソン研究所シニアフェロー・同防衛構想技術センター長）

藤田元信（防衛装備庁技術戦略部技術戦略課技術企画室企画調整補佐官、ランド研究所アジア太平洋政策センター客員研究員）

タイミン・チェン（カリフォルニア大学グローバル紛争・協力研究所（IGCC）所長）

討論：飯田将史（防衛研究所米欧ロシア研究室長）

11:10～12:00 基調講演

角南篤（笹川平和財団理事長、政策研究大学院大学学長特別補佐・同科学技術イノベーション政策研究センター長）

14:00～16:00 第2セッション「オーストラリア／シンガポール／ロシアの視点」

議長：兵頭慎治（防衛研究所政策研究部長）

司会：島津貴治（防衛研究所軍事戦略研究室主任研究官）

報告：マルコム・デイビス（豪戦略政策研究所（ASPI）上級アナリスト）

マイケル・ラスカ（南洋理工大学 S ラジャラトナム国際研究院（RSIS）准教授）

イワン・ダニーリン（ロシア科学アカデミー所属世界経済国際関係研究所（IMEMO）科学・イノベーション部長）

討論：秋本茂樹（防衛研究所政策シミュレーション室主任研究官）